

何故，巨大銀行の不祥事は絶えないのか

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学経営学研究所 公開日: 2015-12-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂本, 恒夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/17710

経営論集
62巻 第1・2号
2015年3月

何故，巨大銀行の不祥事は絶えないのか

坂本 恒夫

1. 銀行業務での不正と反社会的勢力との取引

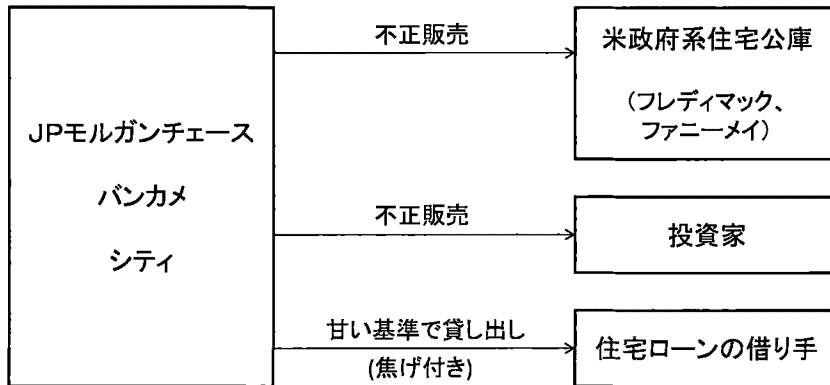
(1) MBS での不正販売

JP モルガンチェイス，バンク・オブ・アメリカそしてシティーバンクなどアメリカの巨大銀行は，2007・8年当時，MBS（Mortgage Backed Securities）を必ず儲かると勧誘し，多額の同商品を販売し巨額の利益を得たとして，金融当局から多額の制裁金を課せられた。MBS の不正販売は，まず甘い基準で住宅ローンを貸付け，それを証券化して投資家や政府系住宅会社に，必ず儲かるとして販売するものである⁽¹⁾。

これらの不正販売で，アメリカ政府は，次項の巨大銀行に，債務減免・補償・罰金で1,000億ドル（10兆円）の支払を命じている。なお，格付け会社もこれに加担したとして，制裁が行われている⁽²⁾。

またBNPパリバも総額89億ドルの罰金を課せられた。

図表 1-1 MBS 不正販売の仕組み



- ・ バンカメ、金融会社カントリーワイド・フィナンシャルを買収
- ・ JPモルガン、投資会社ベア・スターンズ買収

出所：『日本経済新聞』2014年7月15日をもとに、筆者作成。

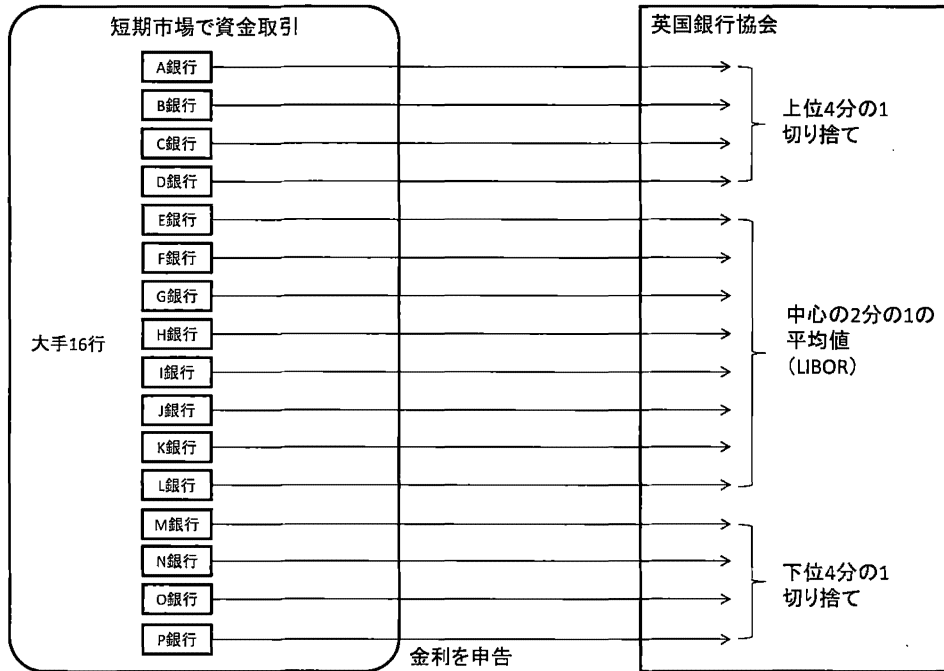
(2) LIBOR の不正操作

バークレイズなど欧米日の巨大銀行は、LIBOR (London Interbank Offered Rate)、つまりロンドン銀行間金利市場において、金利決定に際して某議して操作し、不当な利益を得た。各国の金融当局は、LIBOR の運営方法を見直したり、当該巨大銀行に多額の制裁金を課している。

LIBOR の算出には、欧米日など大手 16 行が加わっているが、短期市場での資金取引における金利申告において不当に高く、または不当に低く英国銀行協会に伝え、その決定に極めて恣意的な不正操作をしていた。資金取引市場の取引規模は、2京9,000兆円であり、ここでの不正算出は、きわめて大きな影響を持つ。

フランスの銀行では、ソシエテ・ジェネラル、BNPパリバ、クレディ・アグリコルなど3行がかかわっていた。

図表 1-2 LIBOR 算出の仕組み（取引規模 2 京 9,000 兆円）



出所：『日本経済新聞』2012年7月17日より筆者作成。

(3) マネーロンダリング

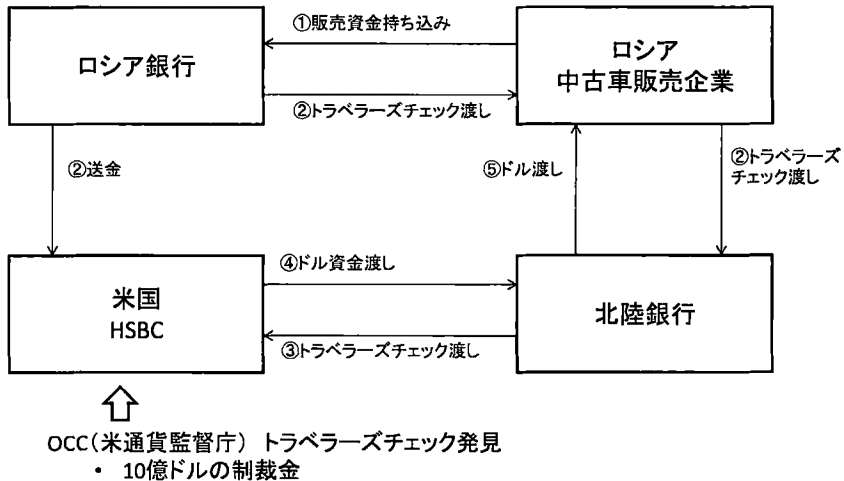
HSBC や北陸銀行は、盗難車などの販売で不当に得た利益を、ロシア銀行などを通じてトラベラーズチェックに引き換え、いわゆる洗浄した上で、HSBC に送付、それに見合う代金を北陸銀行に送金してロシア銀行に還流していた。

OCC（アメリカ通貨監督庁）によれば、同庁は HSBC のニューヨーク支店で大量のトラベラーズチェックを発見した。これは、日本の北陸銀行からもたらされたもので、この見返りにドル資金が送金されていた。北陸銀行は、このドル資金を、ウラジオストックのロシア中古車販売業者に渡していた。またこの業者は、北陸銀行に対し、HSBC に渡されていたトラベラーズチェックを渡していた。このトラベラーズチェックは、同業者が、販売代金を持ち込んだ見返りに、あるロシアの銀行によって発行されたものであった。そして同ロシア銀行は、米国 HSBC にこの販売代金を送金していた。

なぜこのような資金の循環をさせていたのであろうか。これは、ロシアの中古車販売業者の

販売代金を「洗浄」するためのもので、この販売代金が洗浄しなくてはならない「不浄のおカネ」であったと見られている。

図表 1-3 資金洗浄の流れ（HSBC、北陸銀行、ロシア銀行のケース）



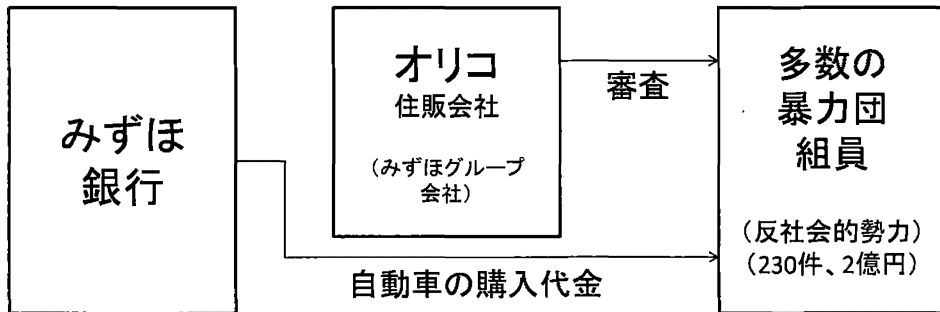
出所：米上院委員会の資料をもとに、『日本経済新聞』2012年7月20日。筆者加筆して作成。

(4) 暴力団への融資

みずほ銀行は子会社オリコファイナンスを通じて、暴力団に巨額の融資をしていた。そして金融庁のその後の調査によれば、三菱UFJ銀行および三井住友銀行も同じく暴力団融資の存在が確認されている。

日本のみずほ銀行は、反社会的勢力である暴力団の多数の組員（230件、2億円）に、自動車購入資金を融資していた。これは同行のグループ会社であるオリコ信販会社が審査したものに基づくものであり、自ら審査したものではないとしている。

図表 1-4 みずほ暴力団融資の構図



出所：『読売新聞』2013年10月5日より筆者作成。

2. 何故、不祥事は起きるのか

(1) 古い体質

イギリスを例にとって、まず説明すると、それはインナー・サークルの存在を指摘できる。インナーサークルとは、ここでは「組織内で実権を握る少数の人々」という意味で用いるが、古くは貴族階級などイギリスの支配階級が、政治的、経済的な重要政策を一部の利害集団のみで決めたところから用いられるようになった。こうした歴史的用語は、近年、ビジネススクールや名門大学などの卒業生が金融分野で、経営政策や金融市場で自らの利害を優先して決める事象の際に、このインナーサークルという言葉を用いるようになった。今回のLIBOR事件においても、ビジネススクールや名門大学などの卒業生の一部のディーラーが連絡を取り合って金利を決めていた。

また日本における大銀行の暴力団利用は、決して今に始まったことではない。これには明治時代からの長い歴史が存在しているが、近年では1980年代後半、銀行による土地の買い占めが行われたが、土地の売却を渋る東京の地主に脅迫などで土地売却を迫ったのは、銀行の手先として動いた暴力団である。またバブル後の貸付取立てを行ったのも銀行から頼まれた暴力団である。こうした長くて古い体質や土壌が、銀行の暴力団融資の背景に存在しているのである。

(2) 金融自由化とグローバル化

銀行不祥事の背景には、近年、展開されてきた金融の自由化がある。これは1986年、英国

サッチャー首相が大胆な自由化策をとったが、これによって大銀行は、いっせいに隣接分野に進出した。住宅金融、保険そして証券である。この進出によって、収益の源泉も拡大したが、またリスクも拡大した。加えて規制の緩和も実施されたが、それはリスク計算を銀行の判断と裁量に任せるもので、これによって統計と確率計算でリスクは金融商品の表面からは消え去っていった。しかしこれが、リーマンショックの内部要因へと発展していく。

また米国のレーガン大統領も、英国に同調するように、金融の自由化を促進した。グラス＝ステイーガル法の撤廃（1999年）への始動、金利統制の撤廃（1986年）、州際間業務規制の撤廃（1995年）など一連の金融自由化の動きが加速された。アメリカでも同じく、リスク計算の方法も銀行自身の裁量に任せるものになった。

さらに、日本では橋本内閣の下、金融改革が進められた。改革案の名目は、フリー、フェア、グローバルで、金融分野の垣根の撤廃、ディスクロージャーの充実、会計制度の国際標準化であったが、これによって銀行の証券参入・子会社化が始まり、金融分野は三大銀行を中心にして再編成が進行した。

最後にフランスでは、1980年代半ば以降、英米の自由化の影響、欧州での金融分野での主導権確保などの理由で、次第に規制緩和、政策転換がはかられた。

金融自由化と関連して各国で進められたグローバル化は、今まで不十分であったロシア、中東、中南米との経済・金融取引を密接にしたが、このことは銀行の国際化に広がりを持たせた。しかし同時に、マフィア、暴力団、そして麻薬取引などの犯罪集団との接点も増えてきたのである。このことが、マネーロンダリングや脱税事件を生む土壌を形成することになってきたのである。

（3）もうけるためには何でもやる - 利益の短期指向 -

①甘い基準

欧米日の巨大銀行は、例えばB I S規制などで、手厚くリスク管理が行われていたはずであった。しかし、株主価値経営の推進の中で、大きな危機もなく、次第にリスク管理は甘くなっていた。その典型が、JPモルガン式のリスク計測であった。これはVaR（Value at Risk）と呼ばれるもので、数千ものポジションをひとまとめにし、確率的な仮定に基づき計算式に乗せて容易に分かる単一の数字をはじき出す。この数字は、銀行が日々のトレーディングで被ることができる損失の合計額（JPモルガンの場合6,700万ドル）である。しかし、VaRは誤った仮説や過去のデータに依存して、まったくリーマンショックに対応できなかった。2008年から09年時には、理論値を上回る損失を計上した（その後同行は1億2,900万ドルに修正）。パー

ゼル銀行監督委員会は、2012年5月、自己資本額の計算でVaRモデルを排除することとしている。銀行まかせの甘い基準がリーマンショックの傷をいっそう大きくしたのである⁽³⁾。

②タックスヘイブン

次の問題は、タックスヘイブン（英語：tax haven, 仏語：paradis fiscal）である。タックスヘイブンとは、一定の課税が著しく軽減、ないしは完全に免除される国や地域のことである。これは小さな国など産業が発達しない国が、国際物流の拠点になろうとして、外貨消費を促進するための国家政策である。代表的なものは、英国領ケイマン諸島のような、国際金融取引の中継地である。しかし今日では、国際的な大企業が租税負担の軽減を目的としてこれを活用している。また本国からの取り締まりが困難というところに目を付けて、暴力団やマフィアの資金が大量に流入しており、マネーロンダリングにも悪用されている。リーマンショックは、金融実態がつかみにくいことが災いして損失額が不明瞭化して、状況をいっそう悪化させた。

③資金洗浄

これは、犯罪によって得られたお金の出処などを隠蔽して、世間一般で使っても、その出処を判らないようにする行為である。捜査機関による差し押さえ・摘発を受けたりすることなどを逃れたり、新たな犯罪の資金源として利用したりする目的で、合法的なお金と混和させる方法で、その出処を隠蔽する行為である。

2004年には、アメリカのシティー・グループ傘下のシティーバンク、エヌ・エイ駐日支店、現在のシティーバンク銀行が富裕層の資産運用を助言するプライベートバンキング部門において、融資と債権の違法な抱き合わせ販売や株価操作のための資金提供、組織犯罪関係者の資金洗浄の手助けや匿名口座と知りながら大口顧客の口座開設などを行った不祥事が金融庁に摘発されている。

④利益の短期指向

こうした銀行業務での不正と反社会的勢力との取引は、なぜ起きるのであろうか。それは株主価値経営と決して無縁ではない。巨大銀行の経営者は、高い自己資本利益率を求められている。高い自己資本利益率は、高い金利収益、高い手数料収入と、そして仕入費用、営業費用の低減によってもたらされている。したがって、営業努力でそれは実現されるが、こうした非営業的・非合理的な収益も、悪いと知りながら手を出してしまうのである。これは、目先の甘いおカネについつい手を出してしまう短期指向の現在の経営者根性を浮かび上がらせている。

しかしなぜ、現在の巨大銀行の経営者は、目先の利益に執着するのであろうか。

3. 利益の長期的低迷

ここで、欧米日の巨大銀行の収益構造を見てみよう。

まず、アメリカのJPモルガン・チェイス、バンク・オブ・アメリカ、シティーバンク、そしてウェルズ・ファーゴであるが、2008年前後までは比較的良好であった。金利収益も非金利収益もほぼ右肩上がりで見られている。費用も上昇しているが、これは営業規模の拡大に伴うものであって、営業利益の上昇と比例的である。金利収益も順調である。サブプライムローンの拡大もあり、金利収益は着実に増加していた。さらにその他の収益、つまり手数料収益も拡大している。証券化商品ビジネスが展開され、その他の収益も着実に成果を出している。

しかし、2008年前後からは、様相が大きく変化している。まず営業収益が大きく低下し、営業費用をカバー出来ず、業績は著しく低下している。その後回復傾向を見せるが、その伸びは鈍い。金利収益も実績は横ばいだが、その他の収益はまったく回復を見せていない。

ただその中でウェルズ・ファーゴだけは収益を順調に回復させ、業績も伸ばしている。同行は、証券業務とは決別し、金利ビジネスで成果を上げている。中小企業への木目の細かいサービスで、高い評価を受けている⁽⁴⁾。

いずれにしても2000年代において、アメリカの巨大銀行は収益構造的には低迷しており、一時増加した収益は証券化商品の好調な売れ行き支えられたものであった⁽⁵⁾。

次に、イギリスであるが、ほぼアメリカと同様な動きを示している。注目すべきはHSBCで、グローバルなビジネス展開で、リーマンショック以降、収益を順調に伸ばしている。ロイズとRBSは、リーマンショックまでリテール特化戦略とM&Aで収益を伸ばしてきたが、リーマンショックでその経営は破綻した。それは同行が買収した銀行がいずれも多額の証券化商品を抱えており、それらが不良債権化した結果である。これら両行は、現在、政府の管理下に置かれており、部分売却、業務の分離など再建計画が提示されているが、大きな進展は見られていない。

さらにフランスであるが、フランスもアメリカと同様な動きを示している。フランスでもBNPパリバ、ソシエテ・ジェネラルが英米銀行と同じ戦略をとっていたが、リーマンショック以降、証券化商品の不良債権化とM&Aの破綻でその業績は回復していない。

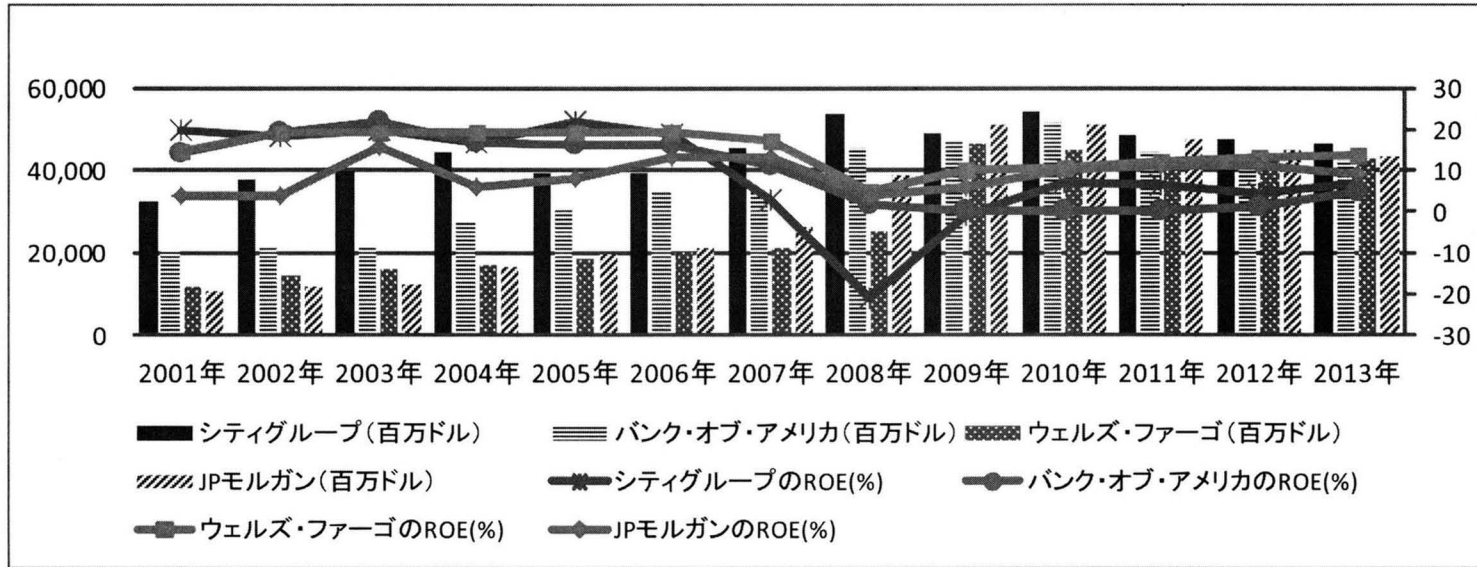
最後に日本だが、三菱UFJ、三井住友、みずほの巨大銀行は1990年のバブル崩壊で壊滅的打撃を受け、2000年頃から少しずつ回復傾向にあったが、リーマンショックで再度大きなダメージを受けた。しかし証券化商品市場への関わりが受身的であったことから、その影響は欧米の銀行ほど大きなものではなかった。したがって、リーマンショックからの回復も速かったが、いまだ戦略も不明確であり、アジア戦略も出足が悪く収益は低迷している。

いずれにしても欧米日の巨大銀行のROEは低迷しており、アメリカのウエルズ・ファーゴが15%前後を維持する程度で、その他は5～10%で長期的に推移している。同じ銀行産業でないので軽々に比較することは出来ないが、IT産業のApple社はROEが30%前後を維持している。アンバンドリングおよびアウトソーシングなどの経営合理化を駆使して、鴻海とのEMSによる生産委託で大きな成果を収めているのである。

こうした巨大銀行の長期的な収益の低迷は、構造的にスキャンダルを起こす体質を醸成しており、抜本的な構造改革を行わないかぎり、このスキャンダル体質は掃討できない。

したがって巨大銀行の構造改革は、部分的な対策や課徴金・制裁金で対応するべきではなく、また自己資本比率の引き上げなどBIS規制的対応ではなく、業務の分離や適性規模の見直しなど、制度や組織を抜本的に見直すものでなくてはならない。

図表 3-1-1 純金利収益と ROE の比較

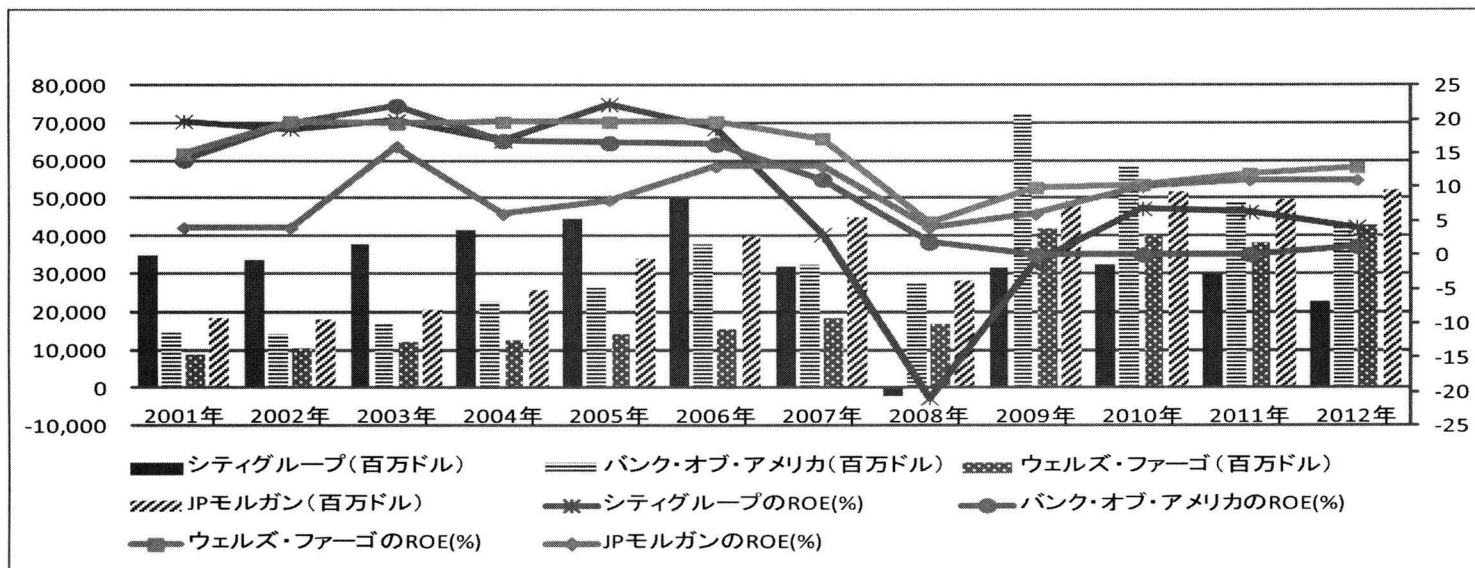


アメリカ銀行の純金利収益とROEの比較

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
シティグループ(百万ドル)	32,691	37,691	39,776	44,623	39,240	39,488	45,389	53,749	48,914	54,186	48,447	47,603	46,793
バンク・オブ・アメリカ(百万ドル)	20,290	20,923	21,464	27,960	30,737	34,591	34,441	45,360	47,109	51,523	44,616	40,656	42,265
ウェルズ・ファーゴ(百万ドル)	11,976	14,482	16,007	17,150	18,504	19,951	20,974	25,143	46,324	44,757	42,763	43,230	42,800
JPモルガン(百万ドル)	10,802	11,526	12,337	16,527	19,555	21,242	26,406	38,779	51,152	51,001	47,689	44,910	43,319
シティグループのROE(%)	19.7	18.6	19.8	16.9	22.2	18.7	3	-20.9	-1.1	6.8	6.3	4.1	7.0
バンク・オブ・アメリカのROE(%)	13.96	19.44	21.99	16.83	16.51	16.27	11.08	1.8	-	-	0.04	1.27	4.62
ウェルズ・ファーゴのROE(%)	14.88	19.63	19.36	19.57	19.59	19.65	17.12	4.79	9.88	10.33	11.93	12.95	13.87
JPモルガンのROE(%)	4	4	16	6	8	13	13	4	6	10	11	11	9.0

出所：各行のアンニュアルレポートの各年版より作成（以下、3-44 まで同じ）。

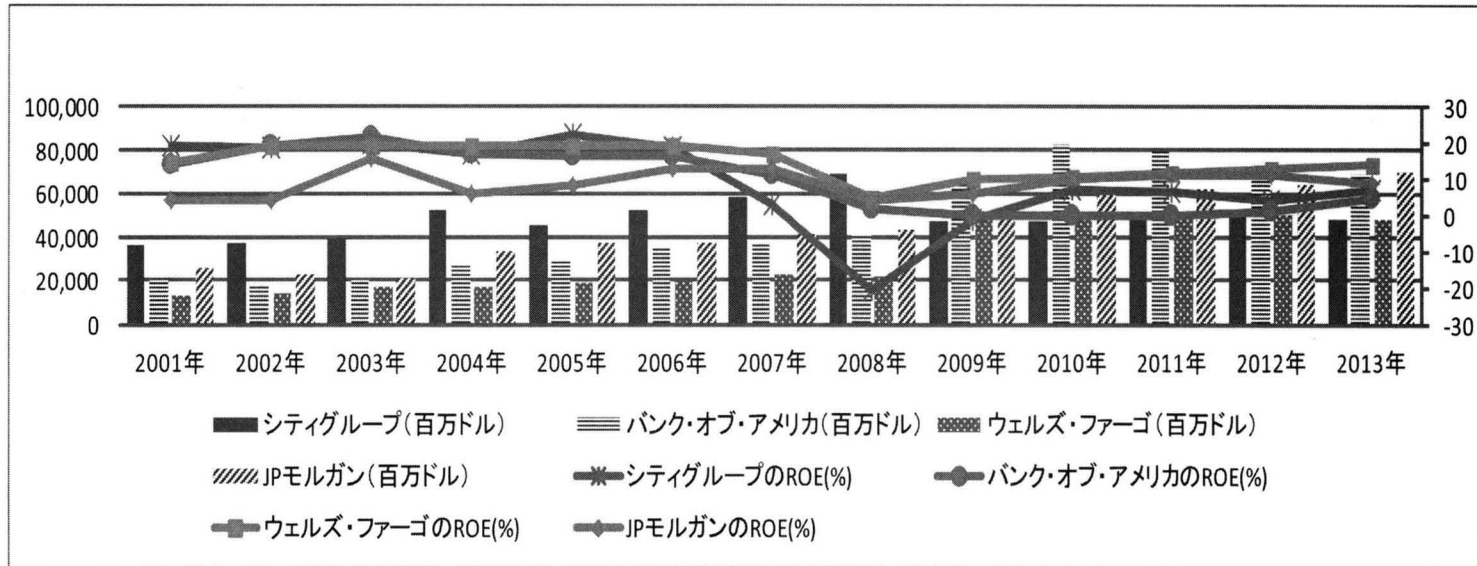
図表 3-1-2 その他の収益と ROE の比較



	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
シティグループ(百万ドル)	34,676	33,617	37,666	41,567	44,402	50,127	31,911	-2,150	31,371	32,415	29,906	22,570	29,573
バンク・オブ・アメリカ(百万ドル)	14,823	14,201	17,363	22,729	26,438	37,989	32,392	27,422	72,534	58,697	48,838	42,678	46,677
ウェルズ・ファーゴ(百万ドル)	9,005	10,767	12,382	12,909	14,445	15,740	18,546	16,734	42,362	40,453	38,185	42,856	40,980
JPモルガン(百万ドル)	18,542	18,088	20,919	25,845	34,193	40,195	44,966	28,473	49,282	51,693	49,545	52,121	53,287
シティグループのROE(%)	19.7	18.6	19.8	16.9	22.2	18.7	3	-20.9	-1.1	6.8	6.3	4.1	7.0
バンク・オブ・アメリカのROE(%)	13.96	19.44	21.99	16.83	16.51	16.27	11.08	1.8	-	-	0.04	1.27	4.62
ウェルズ・ファーゴのROE(%)	14.88	19.63	19.36	19.57	19.59	19.65	17.12	4.79	9.88	10.33	11.93	12.95	13.87
JPモルガンのROE(%)	4	4	16	6	8	13	13	4	6	10	11	11	9.0

—— 何故、巨大銀行の不祥事は絶えないのか ——

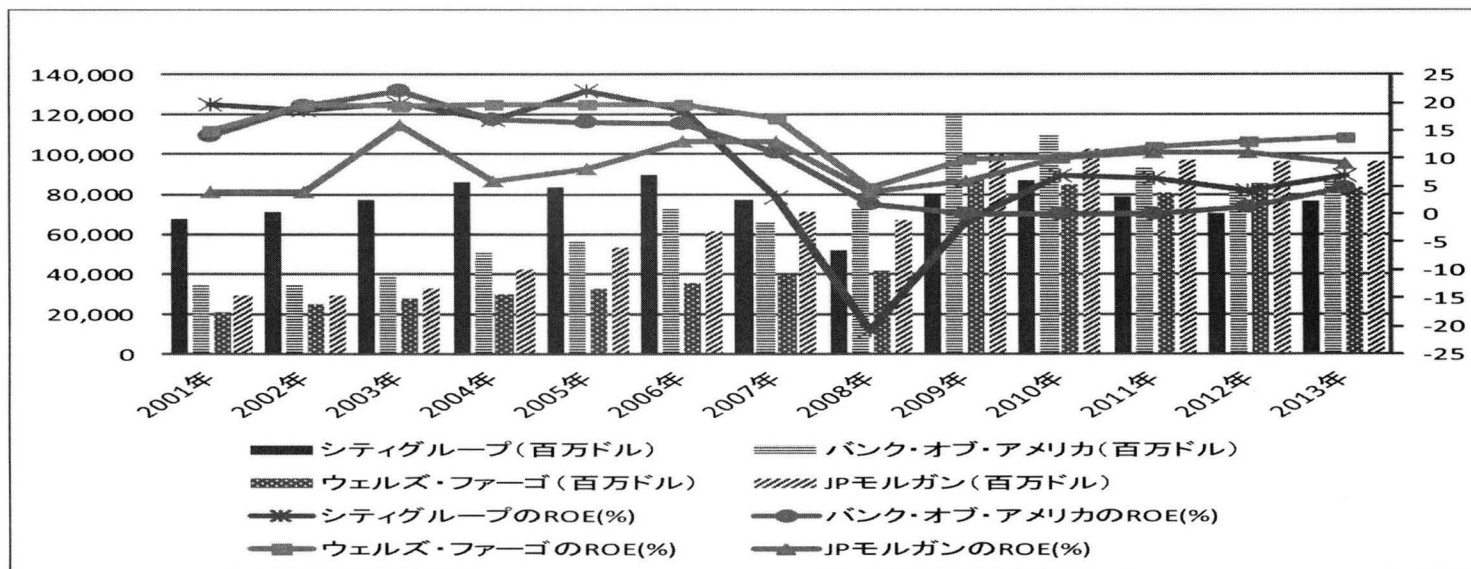
図表 3-1-3 営業費用と ROE の比較



アメリカ銀行の営業費用とROEの比較

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
シティグループ(百万ドル)	36,528	37,298	39,168	51,974	45,163	52,021	58,737	69,240	47,822	47,375	50,933	50,518	48,355
バンク・オブ・アメリカ(百万ドル)	20,709	18,436	20,127	27,012	28,681	35,597	37,524	41,529	66,713	83,108	80,274	72,093	69,214
ウェルズ・ファーゴ(百万ドル)	13,794	14,711	17,190	17,573	19,018	20,742	22,746	22,598	49,020	50,456	49,393	50,398	48,842
JPモルガン(百万ドル)	26,596	22,764	21,688	33,972	38,426	38,281	41,703	43,500	52,352	61,196	62,911	64,729	70,467
シティグループのROE(%)	19.7	18.6	19.8	16.9	22.2	18.7	3	-20.9	-1.1	6.8	6.3	4.1	7.0
バンク・オブ・アメリカのROE(%)	13.96	19.44	21.99	16.83	16.51	16.27	11.08	1.8	-	-	0.04	1.27	4.62
ウェルズ・ファーゴのROE(%)	14.88	19.63	19.36	19.57	19.59	19.65	17.12	4.79	9.88	10.33	11.93	12.95	13.87
JPモルガンのROE(%)	4	4	16	6	8	13	13	4.0	6.0	10.0	11.0	11.0	9.0

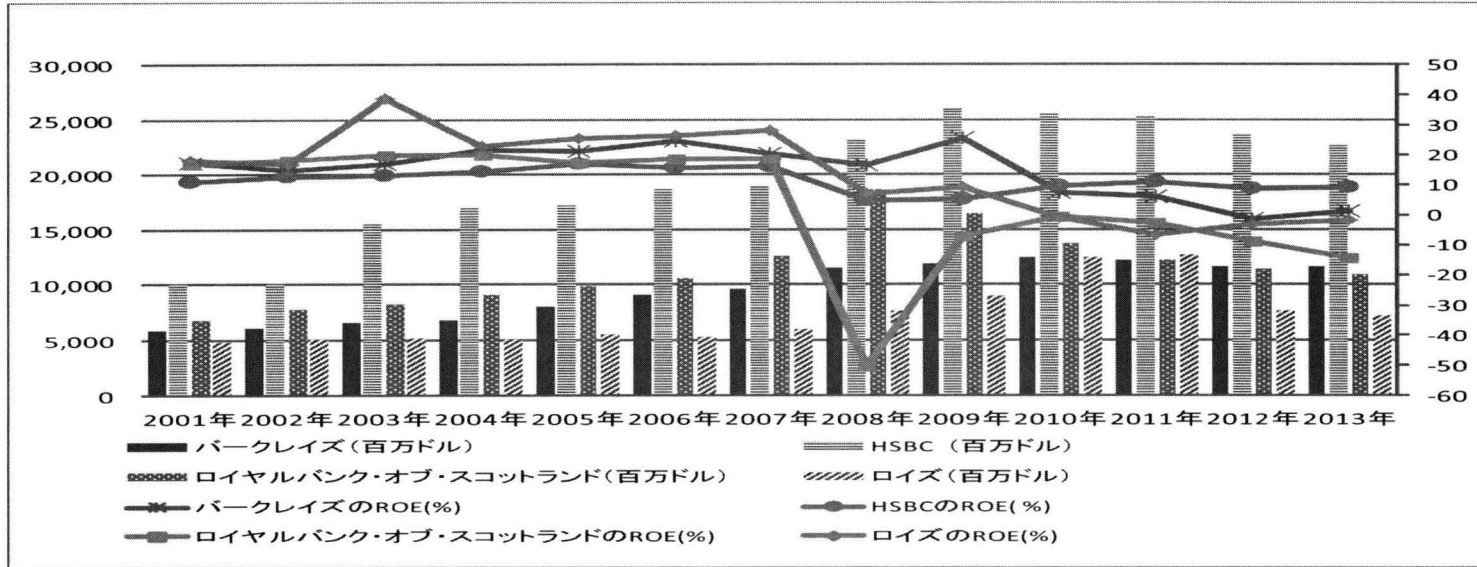
図表 3-1-4 営業収益と ROE の比較



	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
シティグループ(百万ドル)	67,367	71,308	77,442	86,190	83,642	89,615	77,300	51,599	80,285	86,601	78,353	70,173	76,366
バンク・オブ・アメリカ(百万ドル)	35,113	35,124	38,827	50,689	57,175	72,580	66,833	72,782	119,643	110,220	93,454	83,334	88,942
ウェルズ・ファーゴ(百万ドル)	20,981	25,249	28,389	30,059	32,949	35,691	39,520	41,877	88,686	85,210	80,948	86,086	83,780
JPモルガン(百万ドル)	29,344	29,614	33,256	42,372	53,748	61,437	71,372	67,252	100,434	102,694	97,234	97,031	96,606
シティグループのROE(%)	19.7	18.6	19.8	16.9	22.2	18.7	3	-20.9	-1.1	6.8	6.3	4.1	7.0
バンク・オブ・アメリカのROE(%)	13.96	19.44	21.99	16.83	16.51	16.27	11.08	1.8	-	-	0.04	1.27	4.62
ウェルズ・ファーゴのROE(%)	14.88	19.63	19.36	19.57	19.59	19.65	17.12	4.79	9.88	10.33	11.93	12.95	13.87
JPモルガンのROE(%)	4	16	6	8	13	13	4	6	10	11	11	11	9.0

——何故、巨大銀行の不祥事は絶えないのか——

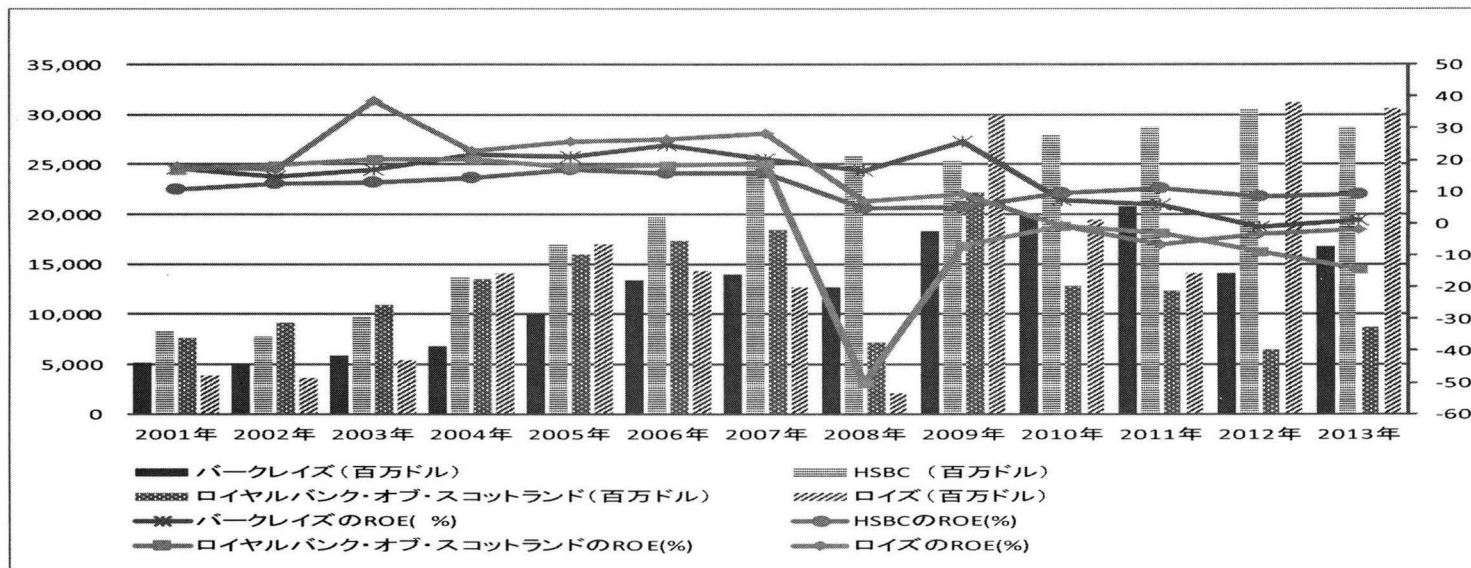
図表 3-2-1 純金利収益と ROE の比較



イギリス銀行の純金利収益とROEの比較

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
バークレイズ(百万ドル)	5,966	6,205	6,604	6,842	8,075	9,143	9,610	11,469	11,918	12,523	12,201	11,654	11,600
HSBC(百万ドル)	10,234	10,296	15,666	16,980	17,243	18,726	18,898	23,197	26,108	25,558	25,373	23,771	22,709
ロイヤルバンク・オブ・スコットランド(百万ドル)	6,869	7,849	8,301	9,208	9,918	10,596	12,668	18,675	16,504	13,782	12,303	11,402	10,981
ロイズ(百万ドル)	4,922	5,171	5,255	5,110	5,671	5,329	6,099	7,718	9,026	12,546	12,698	7,718	7,338
バークレイズのROE(in %)	17.4	14.7	17.0	21.7	21.1	24.7	20.3	16.5	25.6	7.4	5.9	-1.2	1.0
HSBCのROE(in %)	10.6	12.4	13.0	14.4	16.8	15.7	15.9	4.7	5.1	9.5	10.9	8.4	9.2
ロイヤルバンク・オブ・スコットランドのROE(in %)	16.8	18.3	20.1	20.1	17.5	18.5	18.8	-50.1	-7.2	-0.7	-2.9	-8.9	-14.5
ロイズのROE(in %)	18.1	16.8	38.5	22.8	25.6	26.6	28.2	7.0	9.0	-0.8	-6.7	-3.3	-2.0

図表 3-2-2 その他の収益と ROE の比較

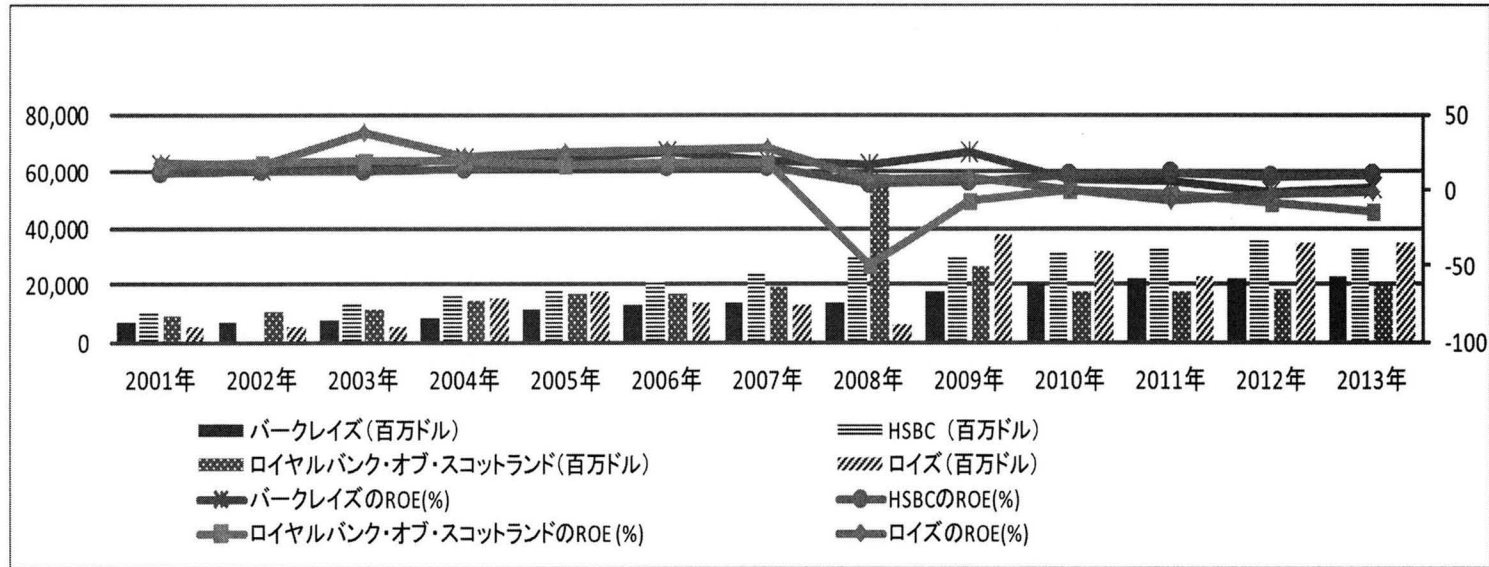


イギリス銀行のその他の収益とROEの比較

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
バークレイズ(百万ドル)	5,163	5,109	5,840	6,853	9,948	13,396	13,952	12,714	18,284	19,949	20,798	14,095	16,820
HSBC(百万ドル)	8,347	7,826	9,788	13,736	17,058	19,781	25,655	25,980	25,436	27,922	28,743	30,559	28,834
ロイヤルバンク・オブ・スコットランド(百万ドル)	7,712	9,167	10,980	13,546	15,984	17,406	18,447	7,193	22,186	12,840	12,348	6,539	8,776
ロイズ(百万ドル)	3,995	3,705	5,496	14,152	17,105	14,344	12,783	2,154	30,019	19,516	14,145	31,195	30,647
バークレイズのROE(in %)	17.4	14.7	17.0	21.7	21.1	24.7	20.3	16.5	25.6	7.4	5.9	-1.2	1.0
HSBCのROE(in %)	10.6	12.4	13.0	14.4	16.8	15.7	15.9	4.7	5.1	9.5	10.9	8.4	9.2
ロイヤルバンク・オブ・スコットランドのROE(in %)	16.8	18.3	20.1	20.1	17.5	18.5	18.8	-50.1	-7.2	-0.7	-2.9	-8.9	-14.5
ロイズのROE(in %)	18.1	16.8	38.5	22.8	25.6	26.6	28.2	7.0	9.0	-0.8	-6.7	-3.3	-2.0

——何故、巨大銀行の不祥事は絶えないのか——

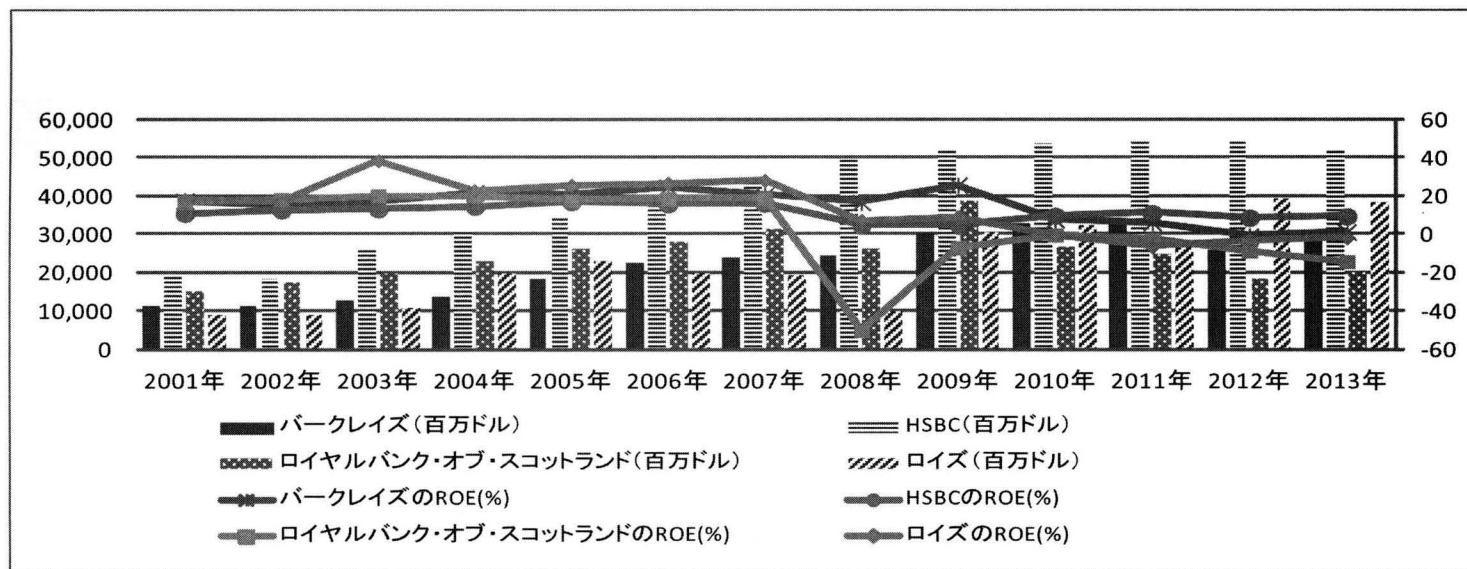
図表 3-2-3 営業費用と ROE の比較



イギリス銀行の営業費用とROEの比較

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
バークレイズ(百万ドル)	6,554	6,624	7,253	8,350	11,172	13,249	13,691	13,628	17,546	20,735	21,627	21,612	22,481
HSBC(百万ドル)	10,706	10,528	13,790	16,993	18,470	20,774	23,825	30,518	30,028	32,047	32,901	36,057	33,386
ロイヤルバンク・オブ・スコットランド(百万ドル)	9,315	10,819	11,711	14,326	16,259	16,938	19,087	58,632	26,335	17,541	17,134	17,827	19,568
ロイズ(百万ドル)	5,003	5,229	5,453	14,919	17,657	13,870	13,089	6,053	38,003	31,781	22,500	34,370	34,839
バークレイズのROE(in %)	17.4	14.7	17.0	21.7	21.1	24.7	20.3	16.5	25.6	7.4	5.9	-1.2	1.0
HSBCのROE(in %)	10.6	12.4	13.0	14.4	16.8	15.7	15.9	4.7	5.1	9.5	10.9	8.4	9.2
ロイヤルバンク・オブ・スコットランドのROE(in %)	16.8	18.3	20.1	20.1	17.5	18.5	18.8	-50.1	-7.2	-0.7	-2.9	-8.9	-14.5
ロイズのROE(in %)	18.1	16.8	38.5	22.8	25.6	26.6	28.2	7.0	9.0	-0.8	-6.7	-3.3	-2.0

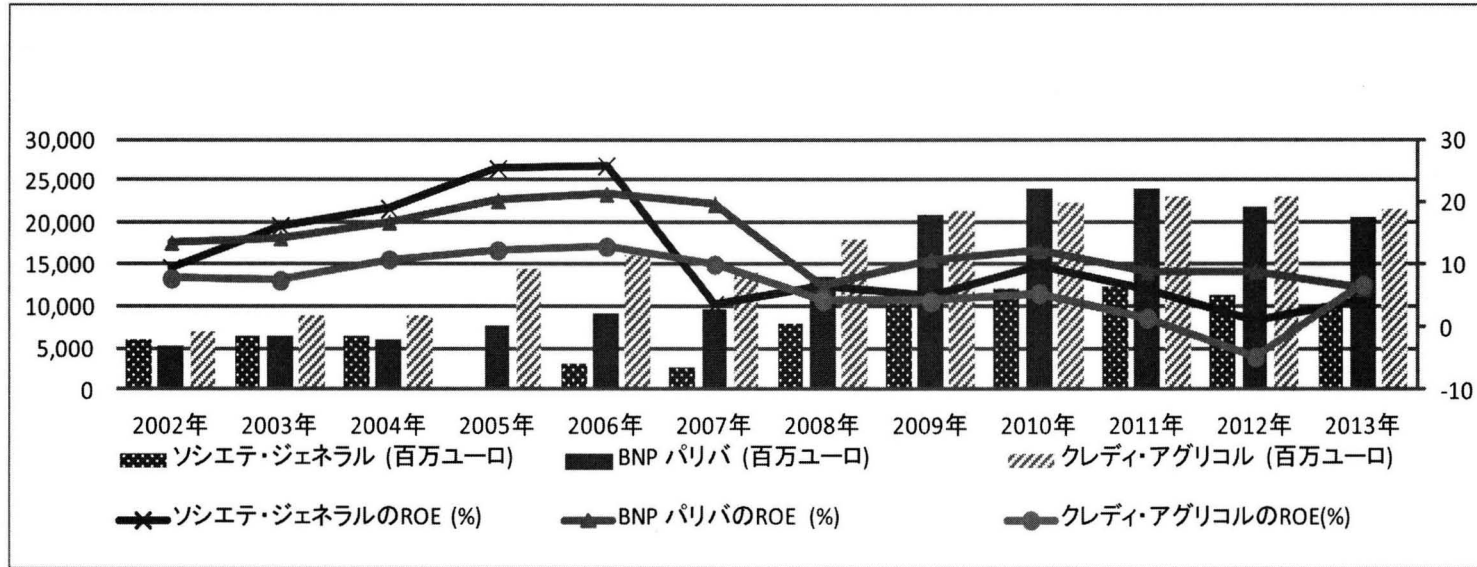
図表 3-2-4 営業収益と ROE の比較



	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
バークレイズ(百万ドル)	11,129	11,314	12,444	13,695	18,023	22,539	23,562	24,183	30,202	32,472	32,999	25,749	28,420
HSBC(百万ドル)	18,581	18,122	25,454	30,716	34,291	38,507	44,552	49,176	51,544	53,480	54,116	54,330	51,543
ロイヤルバンク・オブ・スコットランド(百万ドル)	14,581	17,016	19,281	22,754	25,902	28,002	31,115	25,868	38,690	26,622	24,651	17,941	19,757
ロイズ(百万ドル)	8,917	8,876	10,751	19,262	22,776	19,673	18,882	9,872	30,019	32,062	26,843	38,913	37,985
バークレイズのROE(in %)	17.4	14.7	17.0	21.7	21.1	24.7	20.3	16.5	25.6	7.4	5.9	-1.2	1.0
HSBCのROE(in %)	10.6	12.4	13.0	14.4	16.8	15.7	15.9	4.7	5.1	9.5	10.9	8.4	9.2
ロイヤルバンク・オブ・スコットランドのROE(in %)	16.8	18.3	20.1	20.1	17.5	18.5	18.8	-50.1	-7.2	-0.7	-2.9	-8.9	-14.5
ロイズのROE(in %)	18.1	16.8	38.5	22.8	25.6	26.6	28.2	7.0	9.0	-0.8	-6.7	-3.3	-2.0

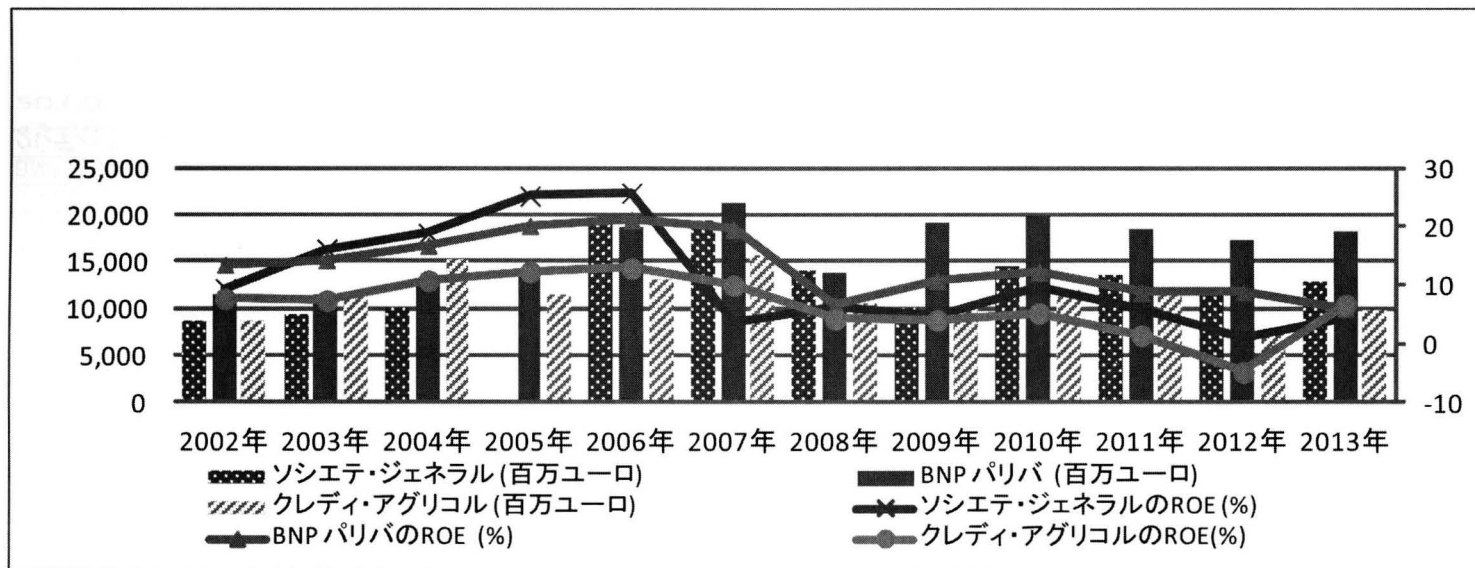
—— 何故、巨大銀行の不祥事は絶えないのか ——

図表 3-3-1 純金利収益と ROE の比較



フランス銀行の純金利収益 (net interest and similar income) と ROE の比較												
	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
ソシエテ・ジェネラル (百万ユーロ)	5,927	6,367	6,413	-	3,112	2,502	7,948	11,635	11,970	12,207	11,312	10,090
BNP パリバ (百万ユーロ)	5,384	6,511	6,119	7,733	9,124	9,708	13,498	21,021	24,060	23,981	21,745	20,596
クレディ・アグリコル (百万ユーロ)	7,048	8,825	8,961	14,428	16,136	13,906	18,009	21,277	22,384	22,986	22,984	21,500
ソシエテ・ジェネラルのROE (%)	9.4	16.2	18.9	25.3	25.8	3.6	6.4	4.9	9.8	6.0	1.2	4.4
BNP パリバのROE (%)	13.5	14.3	16.8	20.2	21.2	19.6	6.6	10.8	12.3	8.8	8.9	6.1
クレディ・アグリコルのROE (%)	7.7	7.4	10.8	12.3	12.9	10.0	4.3	4.1	5.3	1.5	-4.7	6.7

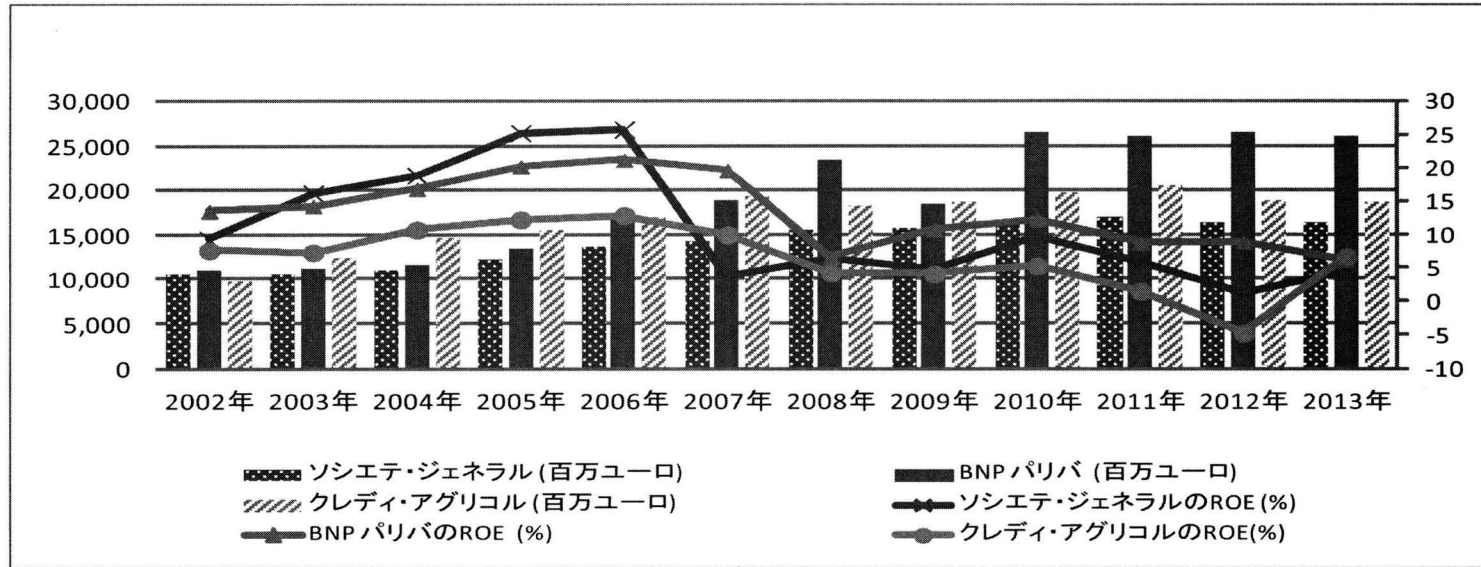
図表 3-3-2 その他の収益と ROE の比較



フランス銀行のその他の収益(other net operating income)とROEの比較												
	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
ソシエテ・ジェネラル (百万ユーロ)	8,646	9,270	10,003	-	19,305	19,421	13,918	10,095	14,448	13,429	11,798	12,741
BNP パリバ (百万ユーロ)	11,409	11,424	12,694	14,121	18,819	21,329	13,878	19,170	19,820	18,403	17,327	18,226
クレディ・アグリコル (百万ユーロ)	8,679	11,689	15,267	11,521	13,020	15,704	10,446	10,028	11,822	12,143	7,698	9,678
ソシエテ・ジェネラルのROE (%)	9.4	16.2	18.9	25.3	25.8	3.6	6.4	4.9	9.8	6.0	1.2	4.4
BNP パリバのROE (%)	13.5	14.3	16.8	20.2	21.2	19.6	6.6	10.8	12.3	8.8	8.9	6.1
クレディ・アグリコルのROE (%)	7.7	7.4	10.8	12.3	12.9	10.0	4.3	4.1	5.3	1.5	-4.7	6.7

——何故、巨大銀行の不祥事は絶えないのか——

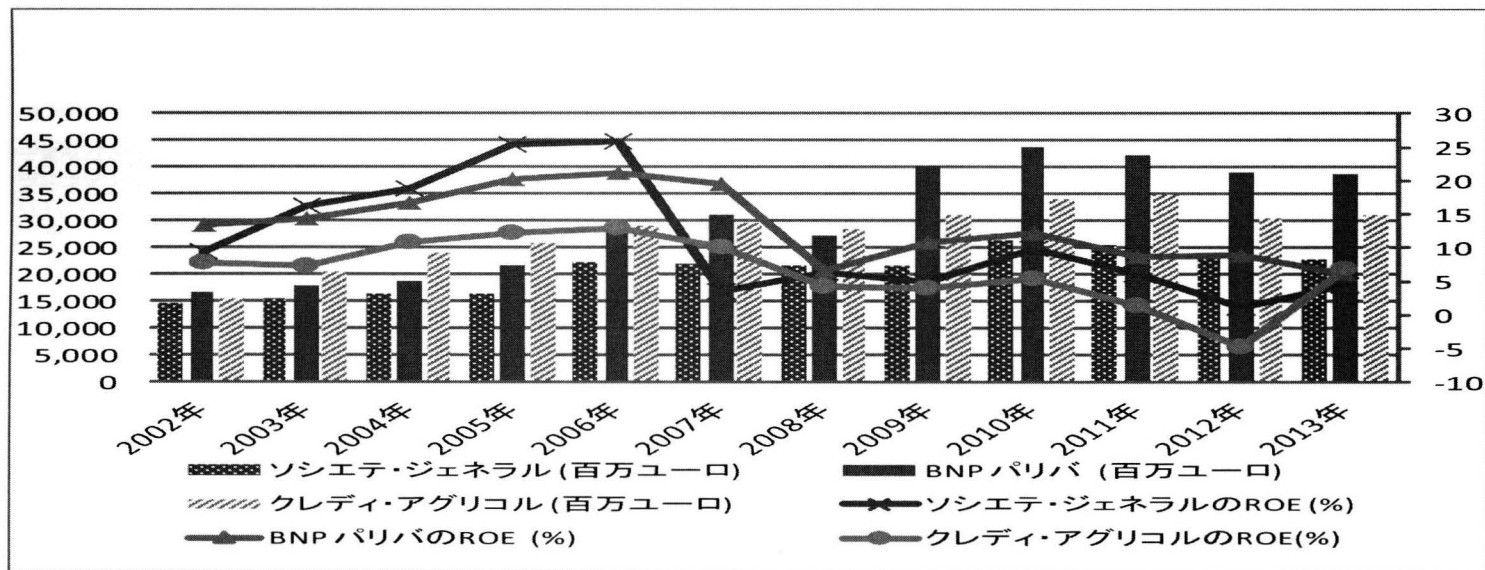
図表 3-3-3 営業費用と ROE の比較



フランス銀行の営業費用(operating expenses)とROEの比較

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
ソシエテ・ジェネラル (百万ユーロ)	10,526	10,568	10,967	12,156	13,703	14,305	15,528	15,766	16,545	17,036	16,418	16,399
BNP パリバ (百万ユーロ)	10,955	11,285	11,592	13,369	17,065	18,764	23,340	18,400	26,517	26,116	26,543	26,138
クレディ・アグリコル (百万ユーロ)	9,783	12,367	14,768	15,540	16,887	19,268	18,144	18,596	19,725	20,517	18,926	18,635
ソシエテ・ジェネラルの ROE (%)	9.4	16.2	18.9	25.3	25.8	3.6	6.4	4.9	9.8	6.0	1.2	4.4
BNP パリバの ROE (%)	13.5	14.3	16.8	20.2	21.2	19.6	6.6	10.8	12.3	8.8	8.9	6.1
クレディ・アグリコルの ROE (%)	7.7	7.4	10.8	12.3	12.9	10.0	4.3	4.1	5.3	1.5	-4.7	6.7

図表 3-3-4 営業収益と ROE の比較

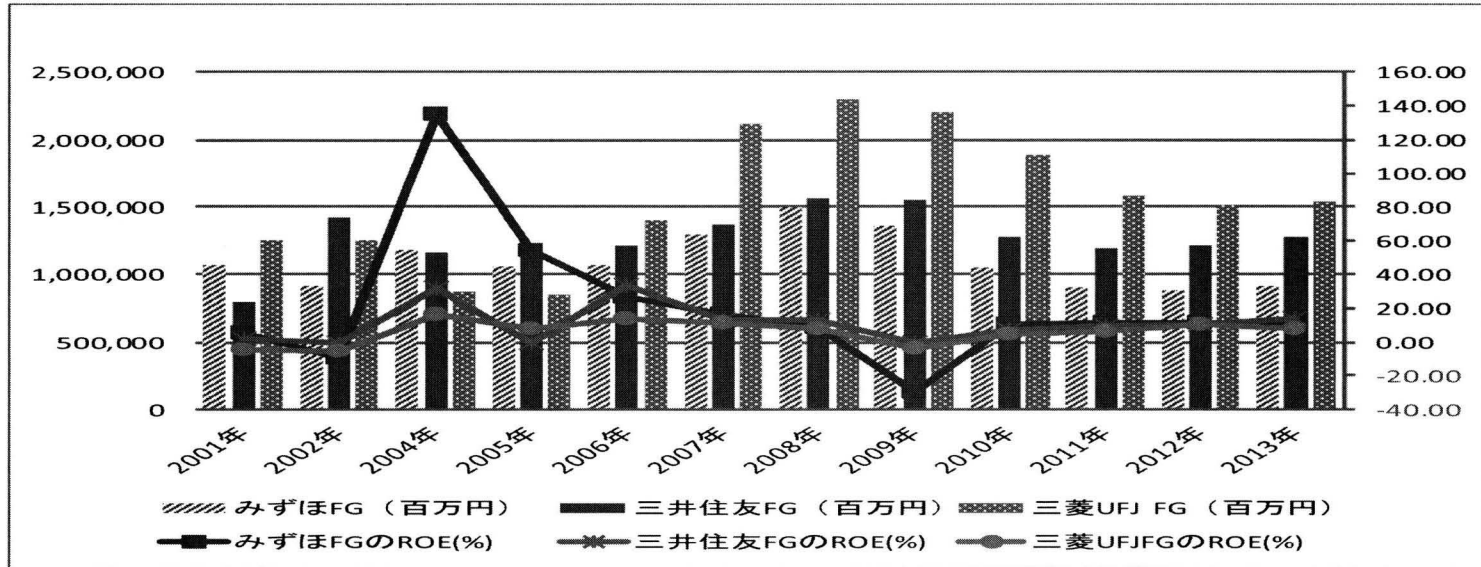


フランス銀行の営業収益(net banking income)とROEの比較

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
ソシエテ・ジェネラル (百万ユーロ)	14,573	15,637	16,416	16,390	22,417	21,923	21,886	21,730	26,418	25,636	23,110	22,831
BNP パリバ (百万ユーロ)	16,793	17,935	18,823	21,854	27,943	31,037	27,376	40,191	43,880	42,384	39,072	38,822
クレディ・アグリコル (百万ユーロ)	15,727	20,514	24,228	25,949	29,156	29,610	28,455	31,305	34,206	35,129	30,682	31,178
ソシエテ・ジェネラルのROE (%)	9.4	16.2	18.9	25.3	25.8	3.6	6.4	4.9	9.8	6.0	1.2	4.4
BNP パリバのROE (%)	13.5	14.3	16.8	20.2	21.2	19.6	6.6	10.8	12.3	8.8	8.9	6.1
クレディ・アグリコルのROE(%)	7.7	7.4	10.8	12.3	12.9	10.0	4.3	4.1	5.3	1.5	-4.7	6.7

——何故、巨大銀行の不祥事は絶えないのか——

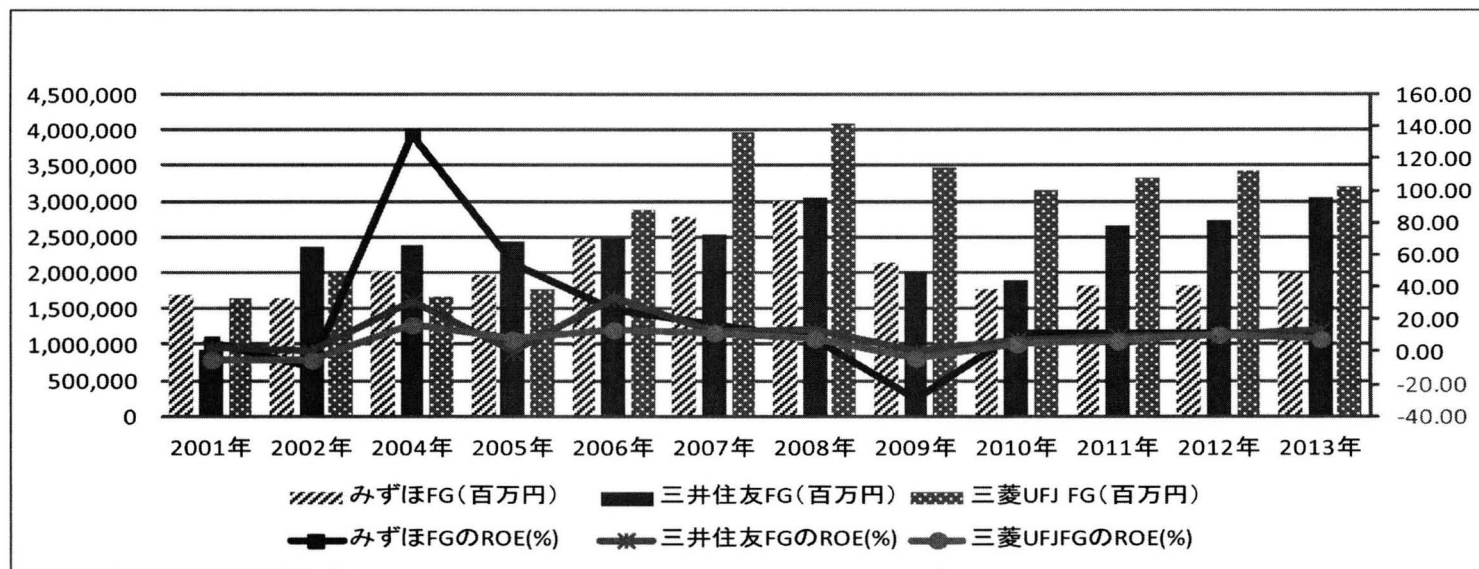
図表 3-4-1 純金利収益と ROE の比較



日本メガバンクの純金利収益とROEの比較

	2001年	2002年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
みずほFG(百万円)	1,073,994	918,532	1,183,736	1,065,198	1,071,892	1,302,102	1,507,449	1,367,354	1,047,718	900,011	888,489	917,263
三井住友FG(百万円)	795,443	1,420,950	1,167,622	1,145,653	1,214,142	1,375,851	1,557,823	1,550,081	1,280,297	1,199,083	1,211,794	1,278,372
三菱UFJ FG(百万円)	1,261,170	1,258,319	873,427	849,596	1,411,124	2,123,825	2,302,324	2,204,409	1,885,962	1,589,377	1,511,115	1,545,750
みずほFGのROE(%)	5.64	-9.97	135.20	54.30	26.30	16.70	8.50	-29.60	10.97	11.78	11.36	10.99
三井住友FGのROE(%)	2.23	-	31.68	-	33.15	13.07	13.23	-	7.63	9.76	10.27	13.74
三菱UFJFGのROE(%)	-4.83	-5.11	16.70	7.89	13.56	11.78	7.99	-3.95	4.91	6.55	10.60	7.96

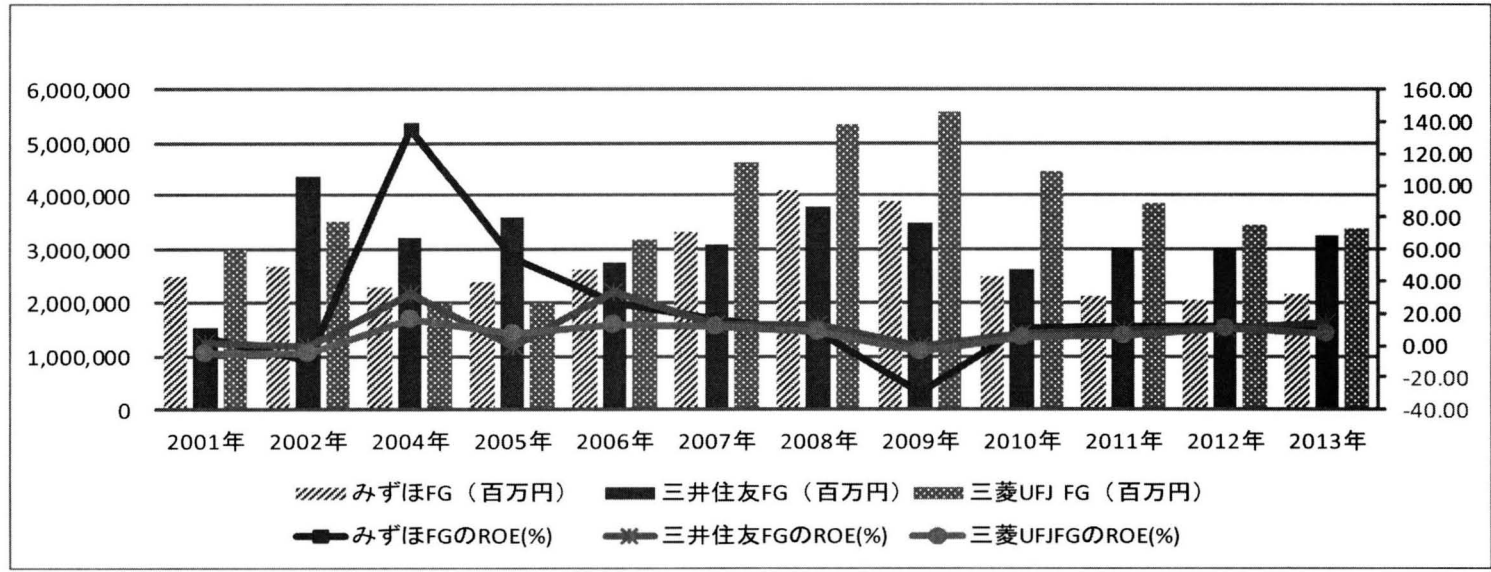
図表 3-4-2 その他の収益と ROE の比較



日本メガバンクのその他の収益とROEの比較												
	2001年	2002年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
みずほFG(百万円)	1,698,885	1,662,036	2,016,890	1,973,988	2,485,657	2,797,552	3,016,061	2,147,074	1,769,907	1,816,780	1,827,185	1,995,742
三井住友FG(百万円)	927,739	2,358,752	2,384,888	2,435,143	2,490,994	2,525,408	3,065,722	2,002,276	1,886,168	2,646,778	2,733,488	3,048,052
三菱UFJ FG(百万円)	1,651,944	2,004,028	1,681,758	1,778,913	2,882,826	3,970,208	4,091,627	3,473,051	3,154,320	3,339,556	3,439,980	3,217,475
みずほFGのROE(%)	5.64	-9.97	135.20	54.30	26.30	16.70	8.50	-29.60	10.97	11.78	11.36	10.99
三井住友FGのROE(%)	2.23	-	31.68	-	33.15	13.07	13.23	-	7.63	9.76	10.27	13.74
三菱UFJFGのROE(%)	-4.83	-5.11	16.70	7.89	13.56	11.78	7.99	-3.95	4.91	6.55	10.60	7.96

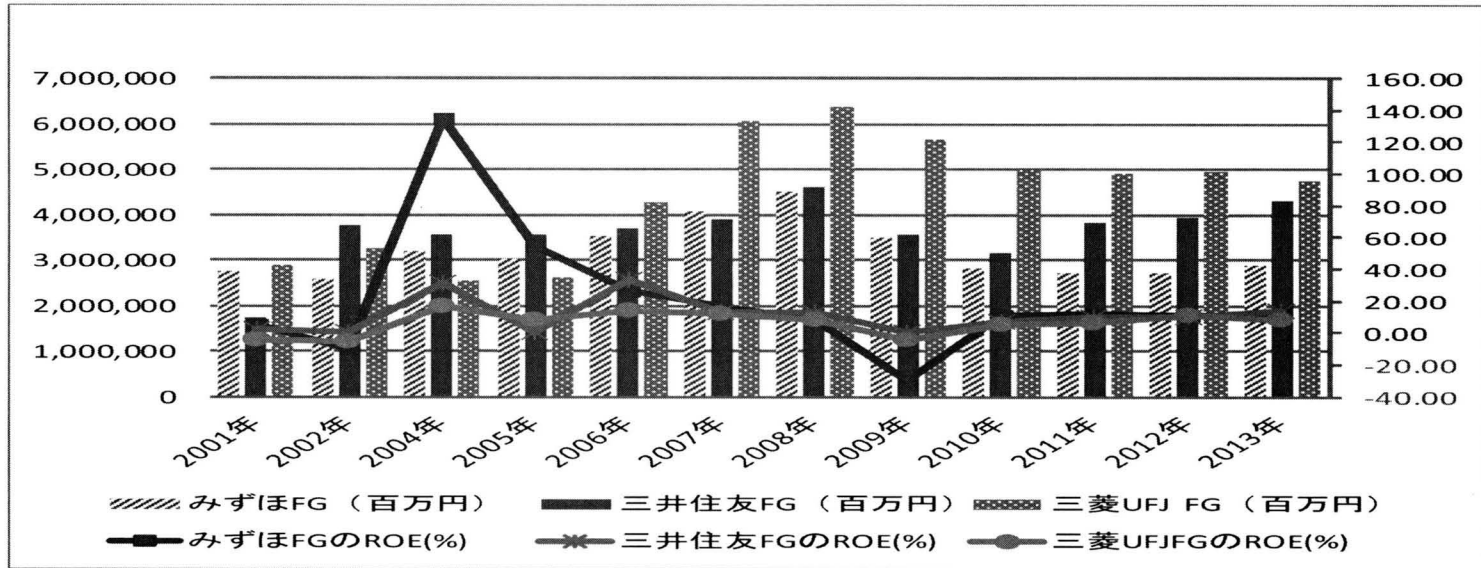
— 何故、巨大銀行の不祥事は絶えないのか —

図表 3-4-3 経常費用と ROE の比較



日本メカバングの経常費用とROEの比較												
	2001年	2002年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
みずほFG(百万円)	2,483,403	2,688,352	2,304,139	2,381,726	2,636,480	3,351,484	4,126,390	3,909,560	2,490,498	2,128,292	2,067,112	2,162,628
三井住友FG(百万円)	1,539,306	4,360,330	3,209,665	3,611,089	2,741,582	3,102,649	3,792,384	3,507,532	2,607,696	3,020,432	3,009,711	3,252,678
三菱UFJ FG(百万円)	3,036,737	3,551,693	1,976,811	2,035,218	3,215,888	4,636,953	5,364,938	5,594,652	4,494,585	3,882,501	3,479,103	3,419,045
みずほFGのROE(%)	5.64	-9.97	135.20	54.30	26.30	16.70	8.50	-29.60	10.97	11.78	11.36	10.99
三井住友FGのROE(%)	2.23	-	31.68	-	33.15	13.07	13.23	-	7.63	9.76	10.27	13.74
三菱UFJFGのROE(%)	-4.83	-5.11	16.70	7.89	13.56	11.78	7.99	-3.95	4.91	6.55	10.60	7.96

図表 3-4-4 経常収益と ROE の比較



日本メカバンクの経常収益とROEの比較

	2001年	2002年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
みずほFG(百万円)	2,772,879	2,580,568	3,200,626	3,039,186	3,557,549	4,099,654	4,523,510	3,514,428	2,817,625	2,716,791	2,715,674	2,913,005
三井住友FG(百万円)	1,723,182	3,779,702	3,552,510	3,580,796	3,705,136	3,901,259	4,623,545	3,552,843	3,166,465	3,845,861	3,945,282	4,326,424
三菱UFJ FG(百万円)	2,913,114	3,262,347	2,555,183	2,628,509	4,293,950	6,094,033	6,393,951	5,677,460	5,040,282	4,928,933	4,951,095	4,763,225
みずほFGのROE(%)	5.64	-9.97	135.20	54.30	26.30	16.70	8.50	-29.60	10.97	11.78	11.36	10.99
三井住友FGのROE(%)	2.23	-	31.68	-	33.15	13.07	13.23	-	7.63	9.76	10.27	13.74
三菱UFJFGのROE(%)	-4.83	-5.11	16.70	7.89	13.56	11.78	7.99	-3.95	4.91	6.55	10.60	7.96

— 何故、巨大銀行の不祥事は絶えないのか —

図表 3-5 Data related to income and shareholder profit of APPLE Inc.

	(in millions of US dollars)												
項 目	2000.9	2001.9	2002.9	2003.9	2004.9	2005.9	2006.9	2007.9	2008.9	2009.9	2010.9	2011.9	2012.9
売上高 Net sales	7,983	5,363	5,742	6,207	8,279	13,931	19,315	24,006	37,491	42,905	65,225	108,249	156,508
売上原価 Cost of sales	5,817	4,128	4,142	4,500	6,022	9,889	13,717	15,852	24,294	25,683	39,541	64,431	87,846
売上総利益 Gross margin	2,166	1,235	1,600	1,707	2,257	4,042	5,598	8,154	13,197	17,222	25,684	43,818	68,662
営業費用 Operating expenses	1,644	1,579	1,612	1,724	1,933	2,399	3,145	3,745	4,870	5,482	7,299	10,028	13,421
営業損益 Operating income/loss	522	-344	-12	-17	326	1,643	2,453	4,409	8,327	11,740	18,385	33,790	55,241
税引前損益 Income(loss) before provision for income tax	1,092	-52	64	81	370	1,808	2,818	5,008	8,947	12,066	18,540	34,205	55,763
当期損益 Net income(loss)	786	-25	42	69	266	1,328	1,989	3,496	6,119	8,235	14,013	25,922	41,733
1株あたり現金配当 Cash dividends declared per common share	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.65
株主資本総額 Total shareholder's equity	4,107	3,920	4,100	4,223	5,063	7,428	9,984	14,532	22,297	31,640	47,791	76,615	118,210
総資産 Total assets	6,803	6,021	6,305	6,817	8,039	11,516	17,205	25,347	36,171	47,501	75,183	116,371	176,064
1株当たり損益 Basic earnings(loss) per ordinary share	2.42	-0.07	0.06	0.08	0.36	1.64	2.36	4.04	6.94	9.22	15.41	28.05	44.64
株価の値幅 Price range per common share	25.38-75.19	13.63-27.12	13.99-26.11	13.12-23.10	9.85-19.00	18.65-53.20	47.87-86.40	72.60-155.00	115.44-202.96	78.20-188.90	180.70-293.53	275.00-422.86	354.24-705.07
ROE Post-tax return on average shareholders' equity (%)	2	-1	1	2	6	18	20	24	28	26	30	34	36
資本比率 Total capital (%)	61	66	65	62	63	65	58	59	62	67	64	66	68

Source: Annual reports of Apple Inc.

4. 巨大銀行はどうあるべきか、そしてどうすべきか

— 自己資本比率の引き上げよりも銀行分割を —

それでは何故、金融当局は、スキャンダルを起こす巨大銀行を告発して銀行免許を剥奪しないのであろうか。課徴金や制裁金ばかりで、ライセンスの剥奪は目にもしないし、話を聞いたこともない。

それは、これら巨大銀行のライセンスを剥奪して潰せないのである。なぜなら、これら巨大銀行は余りにも巨大で、もし潰せば、社会的影響力が大き過ぎるからである。こうしたことから、制裁金で取り繕い、税金で国家的に救済しているのである⁽⁶⁾。

しかしリーマンショックのようなことが度々起これば、税金で救済するのも限界がある。そこで、自己資本比率を8%から25%に引き上げて自力で補填するようにしているのである⁽⁷⁾。

そして大事なことは、自己資本比率を引き上げても、不正や犯罪はなくならないということである。

したがって、われわれが提言すべきことは、銀行を分割して、犯罪や不正が明るみに出た場合は、ライセンスを取り上げて、潰すことが出来るようにすることである。

それでも犯罪や不正はなくならないであろう。しかし、こうした銀行が摘発され、ライセンスを取り上げられ、そして潰れる中で、他の銀行がそれを戒めとして行動すること、顧客がそうした匂いのする銀行から遠去かることによって、社会的制裁を課すことが重要である。

巨大銀行の病いは、分割することでは、処方できないのである⁽⁸⁾。

巨大銀行が倒産したとしたならば、社会に大きな影響を与えるであろう。しかしながら、分割された小さな銀行であれば、影響は限定的なものになるであろう。

もし、スキャンダルが発覚したならば、政府はこの小さな銀行のライセンスを取り上げるべきである。いくつかの企業や預金者は、この小さな銀行がライセンスを取り上げられたならば、大きな影響を受けるであろう。しかし企業をはじめとする顧客は、こうした銀行が破綻するということになれば、十分注意を払いながら、取引をする銀行を選択するであろう。そして顧客は、次にはこうした問題のある銀行は選ばなくなるであろう。そして銀行業界は、全体として、スキャンダルを懸念するような行動を慎むであろう。

【注】

- 1) MBS 不正販売については、『日本経済新聞』2014年7月15日に詳しい。
- 2) 格付けの問題点については、『Financial Times, S&P settles over Mortgage Securities, January 22, 2015』を参照せよ。
- 3) VaR の計算方法の問題点は、『Financial Times, 2012.5.14』を参照。
- 4) 米ウェルズ・ファーゴの現状については、『国内重視, 投資銀と距離』『日本経済新聞』2015年1月6日に詳しい。
- 5) 最近のアメリカ大手銀行の業績については、『米大手銀 好景気でも苦戦—市場混乱, 訴訟費用—ゼロ金利—』『日本経済新聞』2015年1月21日を参照せよ。
- 6) Too Big To Fail 問題については、漆畑春彦「大き過ぎてつぶせない (TBTF) 問題に対する政策の実効性」『証券経済研究』第88号, 2014年12月に詳しい。
- 7) BIS 規制の最近動向については、『時事分析 銀行規制一層強化』『日本経済新聞』2014年12月8日～12日に詳しい。
- 8) 銀行の分割については、ロイズ・バンキング・グループの動きが、『Financial Times 2015.1.6, Big UK banks split over response to tougher rules demanding ringfencing』で紹介されている。